

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



2022. 3
MARCH
No.87



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp/>

私の仕事術

誰も時間には逆らえない

私は、元来、納得するまでとことん作業にのめり込む仕事人間でした。20代は、最終電車の時刻をタイムリミットとして、資料を何度も作り直したり、終わった仕事の資料をせっかく集めたのだからと捨てずに整理するためにさらに時間を費やしたりと、1日の時間の大部分を仕事優先で使っていました。

30代では子育てと仕事のバランスという問題に直面し、当時は、右側でオムツを変えながら左側でパソコン仕事をするなど、気持ちも何もかもが急いでいたように思います。ある日の保育園からの帰り道、子どもから「このよで、ぜったいにさからえないものってなあんだ?」となぞなぞを聞かれました。答えは「時間」。その答えを聞いて、私は、どんな人でも1日は24時間。どう足搔いても、時間には逆らえないのだと思いました。いま思うと「大切なのは、すべてを完璧にこなすことではない、時には妥協してもよい」と言われたように感じたのかもしれません。

それ以来、仕事でも暮らしの中でも、いまやるべき優先順位を意識して、時間の使い方を決めるようになりました。24時間を使うかは自分次第。前は、仕事で保育園や学童の迎えが遅くなったときに子どもに対して申し訳ないという罪悪感を抱き、それが積み重なって自分自身の心も苦しくなってしまいました。いまでは、仕事の時間も暮らしの時間も学生と過ごす時間も家族と過ごす時間も、いま一番優先したい・するべき時間は何かを軸に意思決定することで、罪悪感が肯定感となり、何事にも前向きな姿勢を持ち続けることができるようになりました。

日本大学生物資源科学部准教授
久保田 裕美

ときには妥協もありでよい、 私の24時間の使い方



● くぼた ゆみ ●

日本大学生物資源科学部准教授(農学博士)。学生時代のアメリカの環境NPOでのインターンをきっかけに、ファーマーズマーケット、CSA(地域支援型農業)などに関する研究を行う。2019年から1年間、カナダ・トロントにて在外研究。ローカルフードシステムと食料政策についての調査を行う。

コロナ禍で、時間の使い方の修行中

最近は、仕事と子育てとの両立ではなく、仕事と暮らしの両立があらたな課題となっています。コロナ禍でオンライン授業や会議が増え、自宅に居ながら学会や海外シンポジウムにも参加することができるようになりました。その代わり、家にいる時間も四六時中、仕事と隣り合わせとなるため、これまで以上に臨機応変に時間の優先順位を決めなければなりません。毎日が時間の使い方の修行中です。

最後にひとつ。10年以上も昔のことですが、日々時間に追われていた頃、子どもがこんなメモを書いていました。「ママはどうしておこるの? ○○がママにおこるようなことした? ママ、おしごとでなにかいやなことがあった?」私はそのメモを読み、どれだけ怖い顔をして仕事をしていたのだろうと心から反省しました。「意識してペースを落として、せかせかしすぎないように、ときには妥協もありでよい」、これが私のいまの仕事術です。

infomation

「食で人を幸せにしたい」

神奈川県藤沢市の日本大学湘南キャンパスにある生物資源科学部ビジネス学科では、経済学・社会学・食品科学などの多彩な視点を取り入れ、少人数教育と現場重視の学びにより、日常的な「食」にかかわる問題から地球規模での食料・農業問題まで、「食」にかかわる様々な課題を深く掘り下げて学ぶことができます。



「人を幸せにする
食品ビジネス学入門(第2版)」

日本大学食品ビジネス学科編著
オーム社、2021



2月

19日
20日

WNJ 全国会議報告

第15回 ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 神奈川

ワーカーズ・コレクティブ誕生40年

～孤立や分断を協同の力でつなぎ持続可能な地域社会をつくろう～

2年に1度全国のワーカーズ・コレクティブの仲間が一堂に会し、活動の成果やワーカーズ・コレクティブ運動の進展を共有してきましたWNJ全国会議。コロナ禍のため、初めてオンライン併用での開催となりましたが、多くの人が視聴できる形式もあり、約1,000人が参加しました。東京からも全体会と6分科会に参加し、事例報告などを行いました。

参加メンバーからの報告・感想をまとめました。

全体会

基調講演

協同と連帯による持続可能な地域社会づくり ～生産手段と地球を「コモン」として～

斎藤幸平さん

大阪市立大学大学院経済学研究科・経済学部准教授



グローバル経済が地球の隅々にまで手を入れ、自然を破壊し地球温暖化、気象危機をもたらし、格差社会が増幅し、分断が進行している。未来を失った資本主義に代わる新たな社会への道筋を「脱成長」をキーワードにすることで見えてくるもの。その危機を解決する有効な手立てとして共通の目的や関心のもとに自発的に作る相互扶助の集団・組織としてのアソシエーションという仕組みがある。アソシエーションがつくるコモンという集合体として協同組合は大きな役割を果たす。ワーカーズ・コレクティブはこれまで地域の課題を事業で解決し、協同組合の精神に基づき効率だけを優先するのではなく人と人の結合体として事業運営をしてきた。斎藤氏の「SDGs

は、アヘンである」という言葉は独り歩きしている感もあるが、社会に歪みは、個々の志や日々の活動では解決できるものではない。社会構造の変革に成否がかかっており、働く人の協同組合のワーカーズ・コレクティブの伸張に期待を感じた。

神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会、ワーカーズ・コレクティブ協会、生活クラブ生協神奈川の3団体の「これまでとこれから」の事例報告は、講演を裏付けるものであった。

アフターコロナの経済において、「労働者協同組合法」の成立は大きな力となる。ワーカーズ・コレクティブのイメージの刷新、プランディングを通して、楽しさや軽やかさを纏う「新しい働き方 もう一つの働き方」を提案していきたい。

第1分科会

孤立と分断に立ち向かうこれからのワーカーズ・コレクティブ運動 ～労働者協同組合法成立から見える成果と課題～



田中夏子さん

労働者協同組合法の成立の経緯はワーカーズ・コレクティブの歴史を知ることにつながる。法成立までの長い道のりを振り返り、その課題共有がされた。藤井さん（WNJ）は、孤立と分断が深刻化する今こそ、労働者協同組合の認知度を高め、同時にワーカーズ・コレクティブ運動の推進の重要性を提起。前田さん（生活クラブ連合会）から、ワーカーズ運動の推進に向けて再び積極的に取り組むことが提起された。田中夏子さん（協同組合研究者）は、労働者協同組合という器に乗る実践

と器に乗り切らずあふれ出す実践も多くある。「自分たちの取組みはこの法とは無縁なんだ」と背を向けてしまわず、共に陣地を広げていくことが必要」という言葉からワーカーズへの信頼を感じた。

1982年に神奈川に第1号のワーカーズ・コレクティブができて40年。これまでの多数の人の思いが法案成立につながっていることを再認識し、ワーカーズ・コレクティブという働き方を多くの人に知つてもらい、拓げていきたい。

第2分科会

配送ワーカーズの価値を 活力ある地域づくりにいかそう

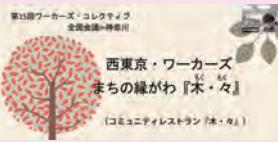
生活クラブ生協の共同購入事業の配送を受託するワーカーズ・コレクティブからの問題提起と今後の展望について考えた。(企)ワーカーズ・コレクティブキャリー(神奈川)では、高齢化する組合員の共同購入のあり方を検討し、新しい形態のコモンズステーションを検討している。(企)ワーカーズ・コレクティブ轍ケイッシュ(東京)では、配送以外に事業拡大を行い、コールセンターの受託、自主事業の片付け事業を進めている。ワーカーズ・コレクティブミント(福島)は、新規配送ワーカーズの立ち上げの報告がされた。



第4分科会

作って売って、日本の食を守る！地域で頑張るワーカーズ ～経営改善で持続可能なまちづくりを～

食関連5つのワーカーズ・コレクティブが登壇。(企)ワーカーズ・コレクティブ紙ふうせん(千葉)は、お弁当販売から共に働く場づくりまで、やりたい人が集まって次の事業が生まれている。(企)ワーカーズ・コレクティブキッチンとまととの地産地消で地元に根差した事業展開。(企)ワーカーズ・コレクティブ碗もあは、地域のチケットの取り入れや企業診断士の指導で収益アップ。(企)ワーカーズ・コレクティブキッチンこらふは、運営会議での徹底した話し合いで職場の環境改善し、楽しく仕事ができている。(一社)ワーカーズ・コレクティブぽろぼの工房食部門とまとは、他業種のワーカーズと統合し、事業継続の道を開いた。



第5分科会

持続可能な “共にはたらく場”づくりを考える ～可能性を求めて～

働く者どうしが、協同でつくり出す働く場や、制度として就労の場を支援する取り組みなどを検証し、障がいがあっても無くても「共にはたらく」という事が、暮らしにどのような意味を持つのかを共有した。東京都の予備認証事業所「わくわくかん」による共に働く新事業の挑戦や食のワーカーズが多様な人と共に働く事業報告。参加者で共

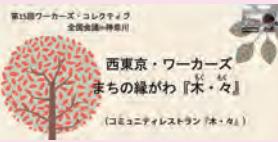


にはたらく身近な可能性などの意見交換も行った。

第3分科会

地域の人々と共に ～多様な人々とつながり、 たすけあって暮らしていく地域づくり～

地域で暮らす誰もが、多様性を認め合い、たすけあって暮らせる地域社会をつくっていくための活動や事例を共有し、実践に活かすヒントを考え合った。ふれあいっこ三ツ沢(神奈川)が展開する子ども食堂、西東京・ワーカーズまちの縁がわ「木・々」(東京)と(企)ワーカーズ・コレクティブ回転木馬(千葉)の居場所事業、ファミリーホーム新松戸7丁目の家の要保護児童を家庭的な環境の中で養育するファミリーホームの実践報告があった。



第6分科会

それぞれの得意分野を持ち寄って 地域でゆるやかに連携し、 人とひとをつなぎあわせよう！

居場所ともなる職場作り、生活に密着した仕事を通して誰もが暮らしやすい地域社会づくりをすすめてきたワーカーズ。自分たちの事業や活動に埋没し、解決できない課題を抱える場面もある。神奈川県茅ヶ崎市でコワーキングスペースチガラボを運営する清水謙さんは、「人と関わる中で学びや気づきを得て、刺激を受け、おたがいのチャレンジなどを応援しあう。それが地域や社会を少しずつ良くしている」。多種多様な人の化学反応のようなコミュニティづくりの実践を紹介。かわさき生活クラブ、子育て支援ワーカーズベリーベリ、やまわけキッチンの事例報告からも、地域や人を巻き込んで進める活動のヒントが多々あった。



Zoomでつながる 東日本大震災被災地交流会報告

第4回 2022年3月5日

地域での事業連携をすすめる

宮城県女川町(一社)コミュニティスペースうみねこ代表の八木純子さん、宮城県石巻市(一社)石巻グリーフサポート代表の木村直隆さんを迎える、地域での事業連携をテーマにお話を伺いました。

「必要な時に必要な事を」との思いで、農作業やものづくりを通して地域の方たちの元気とやりがいを作り出してこられた八木さん。どの取組みからも人を思う心が伝わります。この10年で見える角度が違ってきて、次のものを組み立てられるようになったと仰っていました。

震災発生時は仙台で眠れない一夜を過ごし、翌日石巻に帰宅されたという木村さん。石巻の被災状況を後世に残し伝えたいとの思いから記録映像を制作されました。喪失体験をした方々との出会いがグリーフケアを学ぶきっかけとなり、障害者就労継続支援B型事業所の設立へとつながったそうです。

お二人の事業連携によって製品化された『木製鍋敷き』は、うみねこの活動の中で使われ不要となった木材を、B型事業所の方たちが丁寧な手仕事で磨き上げたもの。一方では問題が解決され、一方では特性が活かされる合理的な連携です。「木村さんだからお任せした」と八木さん。そこには『障害があってもなくても働きたくなる職場』をめざして取り組む木村さんの信念がありました。

事業連携についてのたくさんのヒントを頂きました。中でも「できることをできるだけ一人と人をつなげて仕事をつくる」という八木さんの言葉が印象的です。関わる人を思う心と続けていくことの意義をも考えさせられる言葉だと感じました。

すぐにでも会いに行きたくなる温かくて素敵なお二人でした。

東京ワーカーズ・コレクティブ共済会運営委員 望月美砂緒



Zoomでつながる被災地交流会の参加者

読んでみませんか!

『小さな起業で楽しく生きる』

全国各地のワーカーズ・コレクティブの実例を紹介。ワーカーズ・コレクティブのメリットや問題点、働く事への想い、働き方がわかります。また、ワーカーズ・コレクティブの作り方や、運営方法なども解説しています。

出版社:ほんの木 價格:1,400円(税別)
ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで



東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合支援基金助成

第32回支援基金助成団体決定!!



支援基金は『お金のたすけあい』であり、助成金はワーカーズ・コレクティブの事業発展につなげます。

「新しい事業を始めたい」「事業高が右肩下がりになる」という状況に対する資金的な支援の仕組みとして、費用援助を既存のワーカーズや新規立ち上げワーカーズに助成します。

■(企)ワーカーズ・コレクティブ ラ・ママン
パンの製造にかかるホイロの修理費用

■ワーカーズ・コレクティブ カフェテラスゆめ

サ高住への事業転換により、「カフェテラスゆめ」を認知してもらうための保存版リーフレット・ちらしの作成費用

■(NPO法人)食事サービス 加多厨

事業継続に必要な契約更新の連帯保証人を個人より保証会社へ依頼することでかかる費用

ワーカーズ支援のために、賛助会員に登録をお願いします。寄付金も歓迎です。

【掲載記事の訂正とお詫び】

せれくと 86号P2に掲載しました「NPO 北海道子育て支援ワーカーズ」の表に誤りがありました。下記のように訂正させていただきます。

ご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申しあげます。

(誤)

NPO 北海道子育て支援ワーカーズ	
ぶちとまと (札幌市手稲区)	べりいべりい (札幌市豊平区)
ブーのいえ (札幌市北区)	ほっとまむ (北広島市)
ぐるんぱ (札幌市南区)	びすけっと (小樽市)
ぽけっとママ (札幌市豊平区)	ともに (札幌市白石区)
きらきら (江別市)	ほっぺ (札幌市厚別区)
みるきい (札幌市白石区)	

(正)

NPO 北海道子育て支援ワーカーズ	
ブチトマト (札幌市北区)	べりいべりい (札幌市豊平区)
ブーのいえ (札幌市手稲区)	ほっとまむ (北広島市)
ぐるんぱ (札幌市南区)	びすけっと (小樽市)
ぽけっとママ (石狩市)	ともに (札幌市豊平区)
きらきら (江別市)	ほっぺ (札幌市厚別区)
みるきい (札幌市白石区)	

(NPO法人北海道子育て支援ワーカーズのリーフレットより引用)

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.87

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

<http://www.tokyo-workers.jp>

発行日 2022年3月31日

編集 東京ワーカーズ・コレクティブ 企画編集のもの
年間購読料 600円(年4回発行)